

B 調 査 研 究 の 部

秋田県大潟村の土壤よりボトリヌス菌の 検出成績について (3 報)

秋田衛研 細菌病理科

“ ”

秋田県 五城目保健所

藤 沢 宗 一

金 鉄 三 郎

伊 藤 多 十 郎

1953年6月秋田県におけるボトリヌス中毒（以下ボ菌及びボ中毒と略記する）が発生してから今までの数は合計13件をかぞえるが、そのうち半数以上にあたる8件が八郎潟の南岸地区に多発しているのが、本県に於けるその姿である。

以来私共はその疫学的調査の一つとして県内の土壤についてボ菌の分布を検べて来たが、現在まで統計7530検体から29株のボ菌（A型4株、E型25株）を検出した。

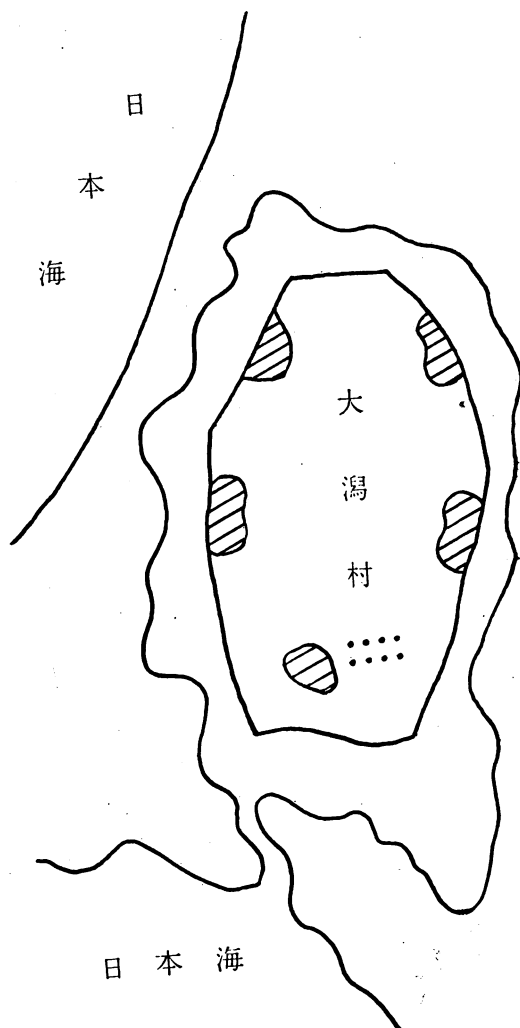
その内訳は八郎潟地区1.5%、内陸地帯0.4%、日本海岸0.07%の検出率で八郎潟地区が他に比べ特に高い数字を示すのが注目される。

この八郎潟は東西12km、南北27km、周囲82km、総面積は22.173haで、わが国第2の広さを持つ海跡湖である。然しこの湖水も国の施設により10年前より年干拓事業が行なわれ、その約85%にあたる17,430haが大地として生れ出で、数年前大潟村として県内で73番の新村が誕生した訳である。そして1967年の秋から入植がはじまり、将来3カ所の集落と12,000人の住民による日本農業のモデル地区が建設されると云う。

私共は本県に於けるボ中毒の発生状況及びボ菌の分布の状態等より推して、嘗て湖底であった大潟村の土壤の検索もあながち徒事ではないと考え、昨春秋に村内周辺部6カ所より1,200検体を採取し、培養実験した結果、船越地区より8検のE型菌を検出した。（下表参照）

又大潟村の西部に隣接する琴浜村潟西地区住民1395名（何れも健康者）の尿についてボ菌の検索を併せ実施したが、その培養液中にボ菌毒素を疑うもの3検体をかぞえた。これらの所見については現在更に実験中である。

尚本調査実施にあたり種々御協力御援助を賜った五城目保健所長先生はじめ担当所員に感謝いたします。



検体採取 月 日	採取地区	検 体 数	検出数	備 考
24/9	鹿 渡	70		
15/10	一 日 市	60		
26/11	浜 口	420		
30/11	浮 西	50		
2/12	払 戸	210		
6/12	船 越	390	8	2.0 %
計		1,200	8	0.66%